昭島市内の祭礼資料展示

【第１号】
令和３年 11 月３日
発行

#1　福島神社祭礼

展示期間：令和３年 10 月５日（火）から
12 月 25 日（土）まで

展示の概要

市内各地の祭礼に関する道具を地域ごとに順次展示いたします。多様な伝統が継承されてきた昭島の祭礼をより身近に感じていただくために、神輿や囃子道具をはじめ、多様な資料を展示してまいります。

担当学芸員より

今回は、市内に伝わる祭礼道具展示の第一回として、福島神社の神輿及び、市指定無形民俗文化財の「福島ばやし」で使われる道具を中心に展示が実現しました。ご協力いただいた福島芝囃子保存会と福島神輿同好会の皆様には深く御礼申し上げます。

福島神社とお祭り

福島神社

天文年間（1532－55 年）の創建と伝えられています。かつては「蔵王権現社」（通称「御嶽さま」「御嶽神社」）と称していましたが、明治初期に福島神社と改称し、現在は日本武尊を御祭神としています。周りを木々に覆われ、春には鳥居

横に桜が咲きます。夏は蝉の声が溢れています。また神社裏には、現在は暗渠（あんきょ）になっている野水掘りという小川が流れており、昭和 40 年（1965 年）頃までは水辺の生き物が集まる自然豊かな場所でした。秋には木々の紅葉が見られます。

祭礼

福島神社の祭礼は疫病防除を祈願して始められたとされており、宮神輿は、須佐之男命を御祭神とし、通称「天王様」（牛頭天王(ごずてんのう)）と呼称されています。当時は多摩川の水害や飢饉が原因の疫病が身近にあったのかもしれません。戦後くらいまでは宮神輿が町内を回った後、それを多摩川に入れて、揉んでいました。これは町内の疫病を多摩川で洗い清める意味があったのだ

と考えられます。祭礼では嘉永４年（1851 年）作の幟旗を掲げています。また、神輿渡御の前におこなわれる町内の子供たちによる獅子頭の巡行も市内では珍しく、町内を清める意味や、神輿渡御の前の露払いの意味があると考えられます。

※写真は旧宮神輿、旧獅子

福島ばやし

福島ばやしは嘉永年間（1848-55 年）に地元の有志によってはじめられたと伝えられています。当初は目黒囃子という流派を継承していましたが、明治期に埼玉県三芳町千曲座から芝囃子を習ったと伝わっています。芝囃子は別名「御座敷囃子」とも言われ、キザミが多く曲全体が流麗で上がり下がりが著しい調子をその特色としています。

福島神社祭礼の神輿渡御にあたっては「送り囃子」を、その帰社には「迎え囃子」を奏する役割になっています。お祭りでは、各自治会を回って演奏もしています。昭和 46 年（1971 年）昭島市無形民俗文化財に指定されました。

福島神社　お祭り　福島ばやし　とは

福島神社

福島神社は昭島市福島町にある神社です。
江戸時代のあいだは、村の人から「御嶽さま」「御嶽神社」と呼ばれていました。明治時代に福島神社と名前を変えました。
日本武尊という神様をお祀りしています。
神社の周りには家がたくさんあります。木もたくさんあり、夏にはセミやカブトムシがいます。今では想像できませんが、福島町は昭和40年ごろ(1965年ごろ)までは、田んぼや畑ばかりでした。神社の裏にも川が流れていて、水辺の生き物がよくみられました。地元の子供たちの遊び場でもありました。
神社では、初詣や2月の祈年祭(たくさん農作物が取れますようにと祈るお祭り)・節分祭、8月のお祭り、11月には七五三などを行っています。

お祭り

福島神社のお祭りは病気を防ぐことを祈ってはじめられたといわれています。今では冷蔵庫やエアコンがありますが、昔はそういったものがなく、大雨が降ると多摩川の水があふれたことでしょうし、病気がとてもはやったのではないでしょうか。お祭りで担がれる宮神輿は、「天王様」と呼ばれています。昔はこの「天王様」が病気を退治してくれると考えられていました。

福島ばやし

お囃子は、「太鼓や笛、鉦」といった楽器の五人囃子と、「ひょっとこ、おかめ、獅子、狐」といった踊りがあります。楽器には楽譜がなく、大人や年上の人たちから太鼓の叩き方や言葉を教えてもらいます。踊りはお面をつけますが、お面の目の穴は小さくて、周りが見にくくなっています。腰を低く落として踊るよう、日々練習しています。

お問合せ：昭島市郷土資料室
〒196-0012　東京都昭島市つつじが丘3-3-15
アキシマエンシス国際交流教養文化棟1階
TEL　042-543-1523　FAX　042-542-8002
(昭島市民図書館共通)
ホームページ
https://www.akishimaensis.jp/guide/heritage_list.html
アキシマエンシス